

展示・收藏品より

# 美を知る 192

教材を工夫している。授業の一環などで訪れた子どもたちは、男鹿産の堆積岩や火成岩を使って違いを学ぶ「岩石標本観察(写真1)」、溶岩の粘りの違いや火砕流などを観察する「火山噴火実験」地震の際の液状化現象実験などの体験学習から大地について学ぶ。実際に野外で地層も観察しながら、過去の記録を読み解いていく楽しさを知る。まさに大地の遺産が教材だ。



写真1

体験学習の一つである岩石標本観察。男鹿産の数種類の堆積岩や火成岩の違いを、さまざまな方法で観察する

## 男鹿半島・大瀧ジオパーク

# 大地の遺産を教材に

当センターには、「男鹿半島・大瀧ジオパーク」の魅力を知ろうと、連日全国各地から来館者が訪れる。男鹿半島には地層の標準となる露頭が多数存在し、最近では「男鹿半島・大瀧ジオパーク」に行く」と紹介している書籍もある。皆、地球のダイナミズムに触れたいのだろう。センターでは、館内の展示物などを通してジオパークの特徴を解説し、団体客にも対応している。2022年1月には、日本ジオパーク委員会の審査で「拠点施設を生かした幅広い分野の教育プログラム」教材が開発され、多くの教育旅行を受け入れている」との評価を受けた。

現在は、特に学校教育支援と生涯教育に力を注いでおり、年間20〜30校の予約が入る。来館の目的は、土地のつくりと変化を学ぶ理科の学習や、防災、環境、歴史文化、地域活性化などを学ぶ。それぞれ目的に合わせてプログラムを組み、主体的・対話的で深い学びができるよう



写真2

岩石触れ合いコーナーで触れることができる男鹿の石焼き料理に利用するデイサイト溶結凝灰岩。約7千万年前の岩石とされる



写真3

一ノ目瀧のかんらん岩(高さ23センチ×幅18センチ×奥行22センチ)。マグマ水蒸気爆発によりマントルから捕獲岩として取り込まれ、地上に飛び出してきた



一ノ目瀧の年縞堆積物標本(長さ84センチ、幅6センチ)。明暗の縞(しま)模様一対が1年分の堆積物に当たる。分析することで過去の気候変動や火山活動、地震の記録などが分かる

写真5

寒風山の植物標本や解説パネル、植物の写真が展示されているコーナー。寒風山に自生する植物110種が十分な管理の下で標本庫に収められている

今年には新たに寒風山の植物標本を展示(写真5)。寒風山の半自然草原には400種を超える維管束植物が自生していることが確認されており、本年度、「未来に残したい草原の里100選」に選定された。男鹿半島で見られる広域火山灰の顕微鏡観察も人気だ。

他にも、安田海岸で見つけたマイクログラスチックごみなどの海洋環境についても、展示や実験で紹介し、現地の視点でSDGs(国連の持続可能な開発目標)も学ぶことが可能だ。

最後に、小学校の理科の学習で来館した児童からの手紙を紹介したい。「大地は少しずつ動いている。そして今も少しずつ動いている。私の立っている大地についてもっと知りたいと思った」。このジオパークで、かげがえのない地球に生きているという感動を味わってもらいたい。

(男鹿市ジオパーク学習センター解説員・菊地光和)

【注】男鹿市ジオパーク学習センターは市役所若美庁舎2階にあり、2012年8月にオープン。開館時間は午前9時〜午後4時。入館無料。月、火曜と年末年始(12月29日〜1月3日)は休館(月、火曜が祝日の場合は翌平日。団体の場合は要予約。同センター ☎0185・46・4110)